

米軍低空飛行・空中給油訓練やめさせよ

党県委員会と大平、垣内氏らが防衛局要請

浜田市内の陸地上空で昨年12月、米軍岩国基地（山口県岩国市）の軍用機が空中給油したとみ



られる問題で、日本共産党島根県委員会と大平よしお、垣内京美の両衆院中国比例予定候補らは2月22日、中国四国防衛局（広島市）を訪れ、同基地に対して無法な低空飛行訓練や空中給油の中止を求めるよう申し入れました。（写真）

「アメリカいいなり」自民政終わらせる

裏金問題もさることながら、住民の平穏な暮らしを脅かす米軍と自民政政治に怒り心頭の日々です。

大平よしお 元衆議院議員

アツく やさしく



昨年12月、岩国基地所属の米軍機が浜田市の市街地上空で空中給油訓練を行っていたと目撃情報。空中給油機は別名「空飛ぶガソリンスタンド」と呼ばれ、万が一墜落事故などあればとんでもない大惨事です。実際に過去には墜落事故を起こして

陸上での訓練など絶対にあつてはならないただならぬ事態だと、報道から10日後の2月22日、島根の皆さんとともに中国四国防衛局に向かいました。担当者は開口一番、「承知していません」と驚くべき他人事ぶり。「一体、あなた方は誰を守っているのか。国民ではなくアメリカ

力を守っているではないか」とその無責任な姿勢を正面から批判し、徹底した実態調査と訓練中止を求めました。

行訓練や空中給油（訓練）の実態の徹底調査▽住民や関係自治体に対する調査結果の説明▽被害解消に向けた具体的な取り組みなどを要請しました。

大平よしおのぶ LINE公式

あなたと双方向のLINEです

大平よしおのぶ LINE公式

ともだち募集中!!

日本共産党

沖繩や東京では以前から米軍施設からのPFAS漏れが問題になっていますが、米軍は知らぬ存ぜぬを決め込み、地元が一貫して求め続けている自治体の立ち入り調査にもまともに応えません。政府は政府で米軍に対し、全くの弱腰で日本の許容されている基準値はそのアメリカと比べても10倍以上のゆるさ。基準値の300倍の高濃度の値が検出されているのですから、事態は本当に深刻です。私たちが生きていく上で大切な水、当たり前の日常や幸せ、子どもたちの安心安全な未来。米軍や自民政にこれ以上奪われてなるものか。（2月26日記）

連帯した「爆音許すな」のたたかい 大平 岩国のたたかいですが、先日、岩国第2次爆音訴訟の原告団の皆さんのお話を伺いました。102歳のお母さんを在宅介護しているという原告の一人は、「就寝しようとする午後11時近くや夜間のおむつ交換で十分睡眠がとれないままの起床間もない午前6時半の爆音は、イライラと疲労感を倍増させます。高齢の母は一日をほとんどベッド上で過ごしていますが、爆音を聞く戦争中に度々経験したB29の襲来の恐怖がよみがえり、胸が苦しくなると言います。私たちは音から逃げられません」と。本当に胸が苦しくなり、日米両政府に怒りがわいてきます。なんと私も勝利できるよう、私たちも連帯してがんばりたいと思います。

去年4月には、岩国市も含む山口2区で衆議院の補欠選挙がありました。私たちが野党共闘を再構築し、勝利をめざすために、一旦擁立した候補者を取り下げて、事実上の野党統一候補でこの選挙をたたかいました。結果は、自民政候補にあと一歩まで迫り、岩国市では野党候補が上回りました。今度の総選挙では必ず勝とう、市民と野党の共闘でこの山口2区で風穴を開けようと、私たちも全力を尽くしています。

赤嶺 嘉手納や普天間の爆音を「心臓が飛び出るほど」という表現をする人もいます。一方で、嘉手納基地の司令官が町内の老人クラブと懇談した時に「嘉手納の爆音というのは、平和と民主主義を守るメロディーだ。うるさいと思わないでくれ」と言ったんです。住民がどんな苦しい思いしているかを意に介さない。皆さん、お金が欲しい

市民と共にたたかい、希望広げる年に 沖繩と中国地方から大軍拡・強権政治に抗して



大平よしお (元衆議院議員) **赤嶺 政賢** (衆議院議員) ~新春対談③~

「この爆音を止めてくれ」「夜間早朝の飛行を止めてくれ」ということなんです。やはりたたかいたかいたと事態は変わらない。大平 本当ですね。中国地方でこそ **日本共産党の議席を** 大平 先日、核兵器禁止条約の第2回締約国会議が行われ、「核抑止からの脱却」が大きなテーマとなり

ました。岸田首相はなお背を向け続けています。が、被爆者たちのたたかいが核保有国と同盟国の手足を縛り、追いつめています。島根原発2号機の再稼働や上関町の使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設の計画など、岸田政権の原発回帰政策の最大の焦点が中国地方にあります。 「政治とカネ」の問題も広島や中国地方で後をた